

新潟県

公民館だより

2

February 2021
No.811



「和太鼓体験教室」(湯沢町) 鼓童スタッフを招き、和太鼓のたたき方や息の合わせ方を学びました。

CONTENTS

特集

4～5 コロナ禍における取組の紹介

一歩踏み出す勇気とハイブリッド講座の可能性

～オンラインの種をまく！～

新潟市中央公民館 布施菜美子

「リモート講座」に挑戦 ～おうちDeしめ縄飾りをつくろう～

燕市吉田公民館

- 2 トピックス 新潟県公民館だより編集委員会開催
- 3 視点 どの子にも学びや育ちの機会を保障する
新潟県小中学校PTA連合会 事務局長 阿部正利
- ひろば プロジェクトO ～小千谷歴史放送局 開局！～
小千谷市公民館 白井雅明
- 掲示板 生涯学習協会 事務局長 急募
- 6 実践記録シリーズ 第5回粟島浦村演芸会
粟島浦村公民館

- 7 サークル交流
忘れな草の会 (昔語り) 忘れな草の会 (新潟市)
八丁紙で正月飾り 分水切り絵村 (燕市)
素顔拝見
八海昭夫さん (魚沼市) / 田村 正さん (十日町市)
- 8 お元気ですか
レクリエーション活動の勧め 中澤洋一さん (刈羽村)
インフォメーション

TOPICS

新潟県公民館だより 編集委員会開催



令和3年2月3日(水)、新潟市中央公民館301講座室において公民館だより第1回編集委員会を開催しました。

編集委員

◎編集委員長

広瀬 松司 (県公連事務局長)

◎委員

- 五十嵐和彦 (県推進センター)
- 上野菜奈実 (上越市)
- 波塚 一郎 (加茂市)
- 内山 純一 (津南町)
- 石川 聡 (阿賀町)
- 竹内 範子 (新潟市)
- 清水 裕子 (新潟市)

編集委員会当日は、公務のため3人が欠席でしたが、予定どおり令和3年4月号から令和4年2月号までの紙面構成、市町村執筆担当確認、特集テーマ、記事内容について確認と意見交換を行いました。



編集全体について

●確認事項

- 令和3年度から各市町村と関係機関等には公民館だよりをデータ配信する。
- 予算の関係で、8ページから6ページの編集に変更する。

●意見交換

- 県立生涯学習推進センターから「フラネット公民館」はオンライン各公民館の情報発信の場として利用してほしい。また、センターのシステムや人材をどんどん利用してほしいというお話がありました。
- 現場としてはほしい情報(コロナ禍の取組や全国的な情報等リアルタイムで流してほしい、社会教育の今後について等)を発信してほしい。
- 公民館だよりの利用については、資料として保管し、必要な時に取り出してみている。素晴らしいものだと思う。
- 紙面の中で、縦書きだけでなく、横書き等でコミカルさを出せたらよいのでは。
- 今後県立生涯学習推進センターに協力いただいてよりよい運営を目指してほしい。

◆公民館だより原稿執筆担当一覧 令和3年4月～令和4年2月(812号～817号)

	視 点	ひろば	サークル交流	素顔拝見	実 践
令和3年 4月	事務局	—	出雲崎町	関川村	弥彦村
6月	—	阿賀町	加茂市	三条市	村上市
8月	事務局	—	柏崎市	胎内市	新潟市
10月	—	津南町	聖籠町	佐渡市	五泉市
12月	事務局	—	小千谷市	上越市	見附市
令和4年 2月	—	湯沢町	刈羽村	燕市	糸魚川市

公民館だよりがデータ配信にかわります。
令和3年度から公民館だよりを各市町村公民館にデータ配信します。市町村が、必要部数を印刷して地区公民館や分館に配布します。個人購読の皆様には、県公連事務局で印刷し郵送でお届けします。



「プロジェクトO
～小千谷歴史放送局
開局!～」
小千谷市公民館 白井 雅明



「どの子にも
学びや育ちの機会
を保障する」

新潟県小中学校PTA連合会
事務局長 阿部 正利



かつて勤務して
いた学校の
地域の公民

館では、自然の家等を活用して野外活動を中心とした年間を通じて宿泊体験型の事業を実施してまいりました。また、ある地域の公民館では、学童を対象にした宿泊体験事業を複数実施してまいりました。地域の歴史的建造物（豪商の館）に宿泊し古の生活文化を体験したり、学校や公民館等を避難所に見立てた防災キャンプを実施したりと、大勢の子どもたちに学びと育ちの機会を提供していただきました。

この宿泊体験型の活動は、やればやるだけ確実に子どもが育つ活動であることは論を待ちませんが、学校教育の中で行う機会は多くなく、修学旅行や自然教室等に限られます。また、民間でも様々な事業が実施されていますが、スタッフが大勢必要なことから費用負担も大きく、残念ながら誰でも参加できるというものではないようです。

退職後、要保護児童対策に携わる機会をいただきました。家庭環境の二極化に驚くと共に、学びや育ちの機会はどの子にも保障されなければならぬとの思いを強くしました。

昨今は、様々なアレルギーなど、個別に配慮が必要な子どもが増えている中、一人一人の特性に配慮し安全に事業を実施することは、ノウハウのある公民館としてもリスクのあることだと思いますが、周到な計画と準備で、学童期の子どもたちに学びと育ちの機会を広く提供していただいていることは本当にありがたいことです。

「第1章 講座ができない」

小千谷では、高齢者学級とは別に、シニア世代を対象に学習講座を行っている。皆で集まりわいわい楽しく講座を行っているものである。しかし令和2年度はこの動きに陰りが出た。新型コロナウイルスの蔓延で学習の機会が減る中、何とか講座を担保できないものか、公民館の職員で知恵を出し合った。

「第2章 お金がない」

集まらないのなら、動画を配信し、学習の機会としてはどうか。テーマは、これまでの要望で最も人気の高い「歴史」でどうか。しかし動画を作るにも予算は

ない。外部講師は使えない。学芸員に話をさせよう。

まじめな話だけではつまらない。地元のFMラジオパーソナリティーを招いて面白くやろう。

単発の動画ではなく、2ヶ月間にわたり、隔週で6本くらいの連続講座にしよう。

撮影と編集は、すべて身の回りの人間だけで行おう。全てが手づくりだった。

7月に配信開始。反応も含め、あとは祈るだけだった。

「第3章 見方がわからない」

動画は、市のホームページ内に掲載した。

告知は、地元新聞での概要掲載、広報でQRコード掲載、チラシ・ポスター配布、Twitterで拡散など。やれるだけのことはやった。

しかし、「動画を見たのに見方がわからない」配信後間もなく、問い合わせが続く。

電話で丁寧に見方を説明した。窓口でも丁寧に説明した。

そういつているうちに、うれしい声も聞こえるようになった。「動画を見るためにスマホを買った。」

「孫に聞きながら、スマホの使い方を覚えた。」

「新しい技術に触れる良いきっかけになった。」

「動画をもっと続けて欲しい。今後に向けて確かな手応えを感じた。」

「そして今後へ、皆さんへお願い」
うれしいお言葉に支えられて、今後も動画配信を続けていこうと考えています。歴史だけでなく、小千谷固有の伝統・習俗など様々な分野を紹介していこうと考えております。

最後にお願いです！QRコードからは非皆さんもご覧になって下さい！



掲 示 板

生涯学習協会 事務局長 急募

新潟県社会教育懇話会（社団懇）の加盟団体である新潟県生涯学習協会の事務局長を急募しています。

- 男女や年齢は問いません。
- 報酬は交通費程度です。
- 応募・問い合わせ

新潟県生涯学習協会事務局 ☎025-250-0121



**一歩踏み出す勇気と
ハイブリッド講座の可能性**
〜オンラインの種をまく〜
オンライン活用推進(Zoom)支援チーム
新潟市中央公民館 布施菜美子

今まで経験したことのない、コロナ禍での社会教育をどうしたらよいのか…。職員有志で動き始めたZoom支援チームの活動が始まってから6か月が経とうとしています。(支

援チーム発足については『新潟県公民館だより8月号参照』なかなかコロナの終息が見えない状況で、オンラインを活用した講座をやってみようかと動き始めた公民館が少しずつ増えてきました。1月末現在、新潟市内25館のうち12館からオンライン講座実施に向けての相談、支援依頼がありました。

初めは、自館のオンライン環境が整っているかどうかの相談が主でした。支援チームメンバー職員が機材一式を持ち込み、まるで工事業者のように館の職員と試行錯誤するところから始まり、オンライン講座が実施できる！と次のステップに進んだ公民館には、Zoomの操作やホストトレーニングの支援も出てきました。そして準備が整った公民館から、オンライン企画会議やオンライン講座への一歩を踏み出しているという状況です。

最近では、会場に集まった参加者とオンライン上の参加者をつないで講座を実施したいという相談が増えてきました。いわば対面とオンラインのハイブリッド形式での講座実施となります。インターネットに対する苦手意識や不安がある人、インターネット環境がないという人も大勢います。そのような人にも、ある程度の安心・安全を確保したうえで講座に参加できる機会を確保したいという思いから出てきた開催方法の一つだと思えます。会場の人とオンライン上の参加者をどのようにつな

ぐのか、機材のセッティングや講座進行の手法も次のステップに進んでいます。

Zoom支援チームにこのような相談が来ると、担当職員の思いに寄り添いながら、どのような環境設定をしてどのように実施したらよいか：一緒に悩みながらも、新たな一歩を踏み出すお手伝いをさせていただいています。

最初は、オンラインといってもね〜。やっぱり公民館事業は実際に会って交流して意味がある。といった声も多くありました。社会教育、公民館事業においては参加者同士の交流が重要であるというのは言うまでもありません。もちろんそれができることが一番ですが、ウィズコロナ・アフターコロナが長引くこの状況で、どうしたら社会教育、公民館における学びを止めずに続けることができるかを考え、動かなければならないのではないのでしょうか。私たち支援チームもそのような思いを持ちながら、手探りで動き始めてここまで来ました。その一つの手法が、オンライン上で何とか学びの機会をつなぐというものでした。確かにオンライン上での社会教育は完璧ではありません。やはり直接の交流や肌感覚で伝わるお互いの思いなど、対面では得られない学びや体験がそこにはあります。また、インターネットに対してまだまだハードルが高いと感じている人がいるという現状もあります。しかし、だからといって公民館

として事業に何も手を打たないというのは果たしてどうなのでしょう。『「コロナ流行により講座はできません」は、もう通じないように感じています。これからは、円滑なコミュニケーションと交流体験が可能な対面による講座と、リスクを減らして参加しやすいオンライン講座といった、両方の良いところを取り入れた講座にトライしていくことも、一つの方法だと思えます。そのためには、オンライン上でもより良いコミュニケーションをとるためのさらなる創意工夫、またインターネットに苦手意識を持つ人へのフォローアップも必要になってきますし、それに伴い新たに見えてくる課題もあると思います。オンライン講座挑戦によって今までの社会教育の大切な部分をそぎ落とすのではなく、さらに進化した社会教育の実践につながる、勇気ある一歩を踏み出せたらと思っています。

私が社会教育に携わったばかりの頃、ある人から「種をまく人になりなさい」と言葉をいただきました。コロナによりどうなることかと沈んでいた日々の中、私たちZoom支援チームはオンライン講座挑戦という種をまいてみました。社会教育の現場において、花が咲いて実がなることは時間がかかることだと思っています。どんな花が咲くのか楽しみにしながら、あきらめることなく土を耕し、愛情を注ぎ、一歩一歩踏み出し続けていきたいと思っています。

「リモート講座」に挑戦 〜おうちDreしめ縄飾りを Jyunkinsu〜

燕市吉田公民館



感染症拡大の影響で講座等が次々と中止となる中で、「しめ縄飾り講座」をリモート（遠隔）で開催しました。この取組ができた要因は、担当職員的情熱と、それを支えた他職員の存在、そして利用者や地域とのつながりです。当公民館職員はみな数年

以上の勤務の継続があり、利用者との関係ができています。粟生津と吉田北の二つの分館には地域の事情をよく知る職員がいます。これらの職員の協力で、ボランティアを募りながら細工の準備や、地域の方から原材の調達もできました。

また、講師の川口麻衣子さんはこれまでの対面講座でも自作の動画を使って説明をされるなどリモート講座に対応できる方でした。YouTUBE配信や撮影、編集などに中央公民館や地域振興課の職員の協力も得ました。（館長 五井勇一）

当公民館の「しめ縄飾り講座」は、例年総勢100人程が参加する人気講座です。それを今年には「公民館では材料配布のみとし、参加者は各家庭でしめ縄飾りを作る」という「リモート講座」にしました。果たしてリモートでもしめ縄飾りは無事に完成し、参加者を満足させられるのか？終始この不安が付きまといました。

毎年この講座の開催には、当公民館職員はもちろん分館職員や地域の方々からもご協力いただきます。今年にはさらに情報分野に長けた他部署の職員からの支援も得て準備に取り掛かりました。

■「リモート講座」としての取組

①参加者は講師からどうやって作り方を教わるか。その手段として、講師に作り方の動画を作成していただき、燕市公式YouTubeチャンネルで配信しました。全工程を5つに分け、丁寧に説明された講師自作自演の動画は、参加者に大好評でした。参加者は都合の良い時間に、動画を繰り返し見ながら自分のペースで作ることができ、密を避けるために窮余の策として行った「リモート講座」でしたが、来年もぜひリモートで！という声も多く聞かれました。

②主催者からのあいさつとしてオープニング動画を作成し、作り方の動画と合わせてYouTubeで公開しました。今回、このコロナ禍の中で当公民館がしめ縄飾り講座を企画した経緯、講師とご協力いただいた地域

の方々の紹介、参加者への激励という内容で作りました。（※1）視聴回数は200回を超え、多くの方に見てもらえたことに満足しています。

③対面講座なら作品のでき具合を確認するのは簡単ですが、リモートではそれが全く分かりません。そこで、参加者にはでき上がったしめ縄飾りの写真をメールで公民館に送ってもらいました。せっかくなので、集まったしめ縄飾り44作品の写真にBGMを付けて編集し、これもYouTubeで配信しました。（※2）

④事後アンケートをどうやって取るかにも悩みましたが、今回は返信用ハガキという手段を取りました。返ってきたハガキからは、しめ縄は無事完成し、参加者はおおむね満足してくれたことがうかがえました。ただ返信率は67%程度、残り33%の満足度が気になりました。

■「リモート講座」で苦労したこと

○当公民館にかかわる市民は「リモート」「YouTube」などと聞いただけで敬遠してしまつ人が少なくないのが現状です。そのため、動画視聴方法はYouTubeだけでなく、同じ内容のDVDも準備し、参加者が選択できるようにしました。○オープニング動画用に地域の方から写真を撮らせてもらう時も気を遣いました。「この写真をYouTubeにアップします」ではなく、「燕市公式YouTubeチャンネルで公開します」と丁寧に言って少しでも不安を与えないよう心掛けました。

○参加者からの写真の一部が公民館にメールで届かない事態が発生し、慌てました。参加者が使用する端末の設定によっては、公民館のパソコンとのメールのやり取りができない場合があることを知りました。

○材料配布も苦労しました。感染リスクを配慮して講師が二十数種類の材料を一人分ずつセットした、その労力も想像を絶するし、それを他業務の合間に窓口で配布するのも、思った以上に大変でした。一つ所に集まり一斉に行う講座形態がどんなに楽かということを感じました。

■当公民館の「リモート講座」の今後

「リモート講座」は参加者にはなかなか好評でした。しかし、主催側は今までの何倍も大変！というのが正直な感想です。ただ一つ胸を張って言えるのは、昨年12月、感染症の情勢が悪化の一途をたどる中で、この講座の中止を一度も考えずに済んだということでした。

さて、来年度の講座はどうしていいでしょうか？今から思案中です。

（文責 奥山智美）

※1. ※2 ぜひこちらから動画をご覧ください。↓



また、YouTubeチャンネルから「燕市しめ縄」で検索してください。なお、講師による作り方動画は、YouTube掲載を12月31日までに限定したので、残念ながらご覧いただけません。



令和元年度「第4回 栗島浦村演芸会」の様子です。

栗島は映画館や娯楽施設はおろかコンビニさえもない小さな離島。
 そんな栗島浦村村民が年に1度楽しみにしているのが、毎年2月の初旬に行われる「栗島浦村演芸会」です。
 第1回目から主催は栗島の若者を中心とした「わかぜの会」。少ない村民、娯楽のない離島でも何か楽しいことができないうか、考えに考えて、村民全員参加型で公民館にいる全員が楽しめる「演芸会」を企画していただきました。参加者はもちろん村民自身。

実践記録シリーズ

「第5回栗島浦村演芸会」

栗島浦村公民館

毎年、時間の過ぎるのも忘れて夕方まで楽しく過ごすのですが、今年はコロナ禍で開催も今までの様には出来ません。
 急遽、第5回「栗島浦村演芸会」はそれぞれの出し物をDVDで撮影して1時間半の縮小版を公民館などの施設で上映する形となりました。
 小さな村の大きな楽しみが次々に中止、延期、縮小になってしまいう今、1日も早いコロナの終息が待ち望まれますね。



学校の先生達の懐かしい「ドリフの学校コント」子供たちは大盛り上がり。

5回目となる今ではすっかり定着して毎年それぞれのグループが老若男女問わずこの日に向けて練習に練習を重ねます。
 主な出し物は「民謡」「三味線」「演劇(コント)」「舞踊」「フォークソング」等々。参加者も村民はもちろん、学校の先生、移住者、小学生...と様々です。
 多くの村民の皆さんが開始前から、お弁当、お茶菓子を持ち寄って公民館に集合します。



「さくら舞踊会」による舞踊。お年寄り目は細めて見えています。



村民のフォークグループ「サークル弦」の演奏。皆さんはじめは初心者でした。



「1年に1話を覚えよう」を目標にしています。それぞれ各自で覚えた民話を図書館等で探し自宅で練習を行い、月1回の定例会で発表を行っています。初めて語る



忘れな草の会 (昔語り) 忘れな草の会 (新潟市)

平成30年5月実施の公民館主催「昔語り講座」を受講した9人で結成しました。

「物覚えが悪く、物忘れが早いという特技を持つ」と自己紹介をしたことから「忘れな草の会」というサークル名がつけられました。

「1年に1話を覚えよう」を目標にしています。それぞれ各自で覚えた民話を図書館等で探し自宅で練習を行い、月1回の定例会で発表を行っています。初めて語る

時や、なかなか覚えられない時などは教材を手元に置いて見ても良い事になっています。みんな聞いて「ここが面白」「こんな風に話したらもっと良くなる」とか自由に感想を言い合っています。

昨年6月、公民館と共催で「民話体験講座」を開催し新たに3人の仲間が増えました。

公民館、コミ協、社会福祉協議会などから呼んでもらい、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。昔話のもつ魅力を地域に、多くの人々に伝えていこうと思えます。

(小畑義則記)

八丁紙で正月飾り 分水切り絵村 (燕市)

分水切り絵村は、会員数15人で、2月から12月までの第2・第4月曜日の午前9時30分から11時30分まで活動しています。

各自が必要な道具類を持ち込み、自由に作品の制作に取り組んでいます。例年6月頃までは、大抵の会員は正月飾り用の「八丁紙」を制作します。「八丁紙」は、鏡餅、神棚に使われる飾り



紙で、縁起物といわれる大黒様、鶴亀等そして翌年の干支を白い紙で切り抜いて、その下に赤い台紙を重ねて飾ります。約2千枚以上の「八丁紙」を、会員の皆さんで振り分けて制作をし、その一部は、道の駅「国上」やスーパーマーケット等で販売もされています。

また、4月からは、「ギャラリー久賀美」「ふれあいパーク久賀美」「大河津資料館」等で作品の展示を行っており、毎日のようにあちらこちら出かけることとなります。展示作品を見た人から会員の入会申し込みや、問い合わせなどもあります。

小学生を対象に、7月には学校の夏休みを利用して、2地区で各2日間の切り絵教室を開催し大好評です。さらに12月には、道の駅「国上」で、大人向けに八丁紙切り絵教室を開催し、毎年多くの人が参加者され喜ばれています。(代表今井耕治記)



魚沼市小出・小出北部公民館 館長 八海 昭夫 さん

小出・小出北部公民館長の八海昭夫(はっかいあきお)さんを紹介いたします。以前は市役所職員として勤務をされていた八海館長は、長年の経験と知識から、とても頼りになる館長です。

いつも元気で話題も豊富な館長のおかげで、公民館の雰囲気明るく、誰でも気軽に立ち寄れるアットホームな公民館になっています。

また、館長は多趣味多芸で、「そば打ち」や「安来節」など、精力的に様々な活動をされていて、スゴイと思います。

歴史や伝説の話に精通しており、魚沼が地元の私でも、初めて聞くようなお話をたくさんしていただいて、いつも勉強になっています。

八海館長とお仕事をさせていただくようになってから、もうすぐ1年が経とうとしています。これからも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

[魚沼市小出北部公民館 主事 外山 縁 記]

素顔拝見



十日町市下条公民館 館長 田村 正 さん



十日町市下条公民館の田村正さんを紹介いたします。田村さんは、新潟県の行政職を定年退職された後、地元での推薦で館長となり、この4月で5年目になります。

一昨年からは市内の地区公民館は、職員体制の見直しで、正職員1人と会計年度任用職員が2人から1人減り、2人体制で日々の業務を行っています。業務は特に減っていないので大変になった面もありますが、非常勤の館長は、職員の健康を第一に配慮し、時間がある時は出勤して様々な面でフォローしてくれています。気さくで何事も相談しやすく、本当に頼りになる田村さん。書類のチェックや校正などは今までの経歴から「流石!」と感じさせられます。また、フットワークも軽く、雪田作業や施設の修繕、どんな作業にも、自ら積極的に取り組んでくれて本当にありがたいです。昨年からは新型コロナウイルス対策に配慮しながら事業を実施していますが、今後も館長からは、適切なアドバイスと協力をいただきながら事業を行いますので、これからも宜しくお願いいたします。 [下条公民館 水落 巖 記]

i インフォメーション i

シニアカレッジ新潟 令和3年度学生募集

1.入学資格

県内に居住する概ね60歳以上の方で、学習の成果を地域活動に役立てるなど社会参加活動の意欲のある方

2.申込方法

①ホームページからの申し込み ②入学申込書の郵送

3.募集期間

令和3年3月15日(月)～4月16日(金)

4.入学者の決定

- ・募集定員を超えて申込があった場合は、締切後に抽選のうえ決定。(先着順ではない)
- ・結果は、5月中旬までに応募者全員に文書で通知

5.基礎応用課程

- ・受講料 6,600円
- ・講座時期 【1年次】6月～10月 【2年次】5月～10月
- ・講座日数 【1年次】13日 【2年次】14日
- ・講座時間 基本13:00～16:00
(うち5回程度10:00～16:00の日あり)
- ・募集定員 新潟120名(2クラス各60名)
長岡50名、上越30名
- ・講座内容

	1年次	2年次
講義名	<ul style="list-style-type: none"> ・人に好かれる話し方・聴き方 ・高齢者が知っておきたい法律 ・音楽の力 ・交通事故防止と地域安全活動の実際 ・他国の文化にふれる ・世界遺産を学ぶ ・薬と健康～薬の知識と上手な使い方～ ・気軽にできる健康体操 ・救命救急の基礎 ・社会・人のつながりと健康寿命 ・社会福祉サービスの基礎 ・介護の基本と認知症 ・自己表現と関係づくり ・生きがい探しと地域づくり ・私もできる!!身近な子育て支援 ・特別講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県の歴史 ・良寛さんに学ぶ ・心地いい暮らしのための整理整頓術～これからどう生きるか～ ・地球温暖化問題について ・賢い消費者～悪質商法の被害にあわないために～ ・目の健康維持の秘訣～輝く視界をいつまでも!～ ・お口の健康と体の健康 ・高齢者のストレス予防と対策 ・認知症・転倒予防と健康づくり ・高齢者の健康づくりと食物～老化を防ぎ若さを保つ食事～ ・成年後見制度と日常生活自立支援事業について ・障がい者の「働く」はどのようにして可能になったか? ・実践者から学ぶ地域福祉と協働 ・自然災害と自助力・共助力 ・話してみよう、私の地域活動～活動実践者との交流～ ・特別講義

6.問い合わせ・申込先

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 地域福祉課
(シニアカレッジ新潟事務局)
〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階
TEL 025-285-1400 fax 025-285-0303
メール oasis@fukushiniigata.or.jp



「レクリエーション活動の勧め」

刈羽村レクリエーション愛好会 中澤 洋一 (刈羽村)

レクリエーションとは「失われた元気を取り戻す事」と言われています。私達グループは、文化祭で「子供の遊び体験コーナー」を設け、竹とんぼ、紙飛行機、コマ等、昔の遊び道具を作って、子供たちと楽しく遊んでいます。

子供にとって遊びは、人間形成の為に必要不可欠のものであると思います。是非このような健康的な遊びが、多くの子供たちに愛されるようになり、広く普及される事を願っています。

遊びは子供たちだけでなく、大人の世界にも必要不可欠なものと思います。遊びというところが仕事と対比されて「なまけている」というように取られがちですが、私は遊ばないかと思いついてはいる人が多いのではないかと思います。ゲートの親友は「人間は遊ぶ時こそまったりと言っています。人間は仕事や労働の中ではなく、遊びの中にこそ人間の完全な姿があるという事です。

遊びは私たち大人にとって、老化を防ぎ、いつまでも若々しく、心も体も元気に過ごす為の特効薬です。レクリエーション活動により大いに遊んで、潤いのある豊かな人生を送りましょう。

編集後記

最近テレビ等で「黙食」「黙トレ」の紹介がありました。お店のポスター等に「黙〇〇」と入れ、新型コロナ感染防止のために会話をしないことをアピールすることだそうです。会話のない日常に少し違和感を感じますが、日本中が「黙〇〇」に取り組み新型コロナウイルス感染が終息することを願っています。私も黙々と黙食に頑張ります！ (広瀬)



令和3年度新潟県 受付中!

交通災害共済

年会費

500円

ひとり年額500円です。途中加入の場合も同額です。

見舞金

3万円(実治療7日)～

最高150万円

(死亡)

共済期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

※途中加入の場合は、加入した日の翌日から令和4年3月31日までです。

お問い合わせは、お住まいの市役所・町村役場の担当窓口へ

新潟県市町村総合事務組合